

第159回例会 梅池雪見会記録

山田 健

前夜(2013/1/18)、山本恵昭さんと神戸発で梅池の前田館に朝7時に到着、ちょうど前日から来ている甲南、関学、神戸の面々が朝食をとっていたので、ついでにごちそうになりながら今日の予定を話し合う。以外に天気がよさそうなので、山スキー隊を出すことになった。メンバーは甲南から浪川氏、山本さん、唯一の若手の谷君の3人と神戸から私の全員で4人である。コースは天狗原に上がって、親沢右俣を滑って一度1598mピークに続く尾根に上り直し、北側の黒川沢を滑って白馬乗鞍スキー場に出るというものである。浪川さんと山本さんは親沢左俣には行った事があるとのこと。

ゴンドラ乗場まで車で送ってもらって、ゴンドラとリフトを1本乗り継いだあと、トラバース気味に林道まで滑ってシールを付ける。10時。その間にもどんと山スキーの



天狗原への登り

パーティーが出発して行き、りっぱなトレースができあがっている。同行の浪川さんのお年をきくと68歳とのこと。お元気な老人だとその時は思っていた。歩き出して早大小屋まで行くと、鶴峰越えで親沢左俣に行くパーティーが多く、我々のように天狗原に行くのは少ないようだ。天狗原のへ上りで一番元気だったのが浪川さんであった。何か運動でもしているのか尋ねると、毎日、テニスとジムに通っているとのこと、さらに以前はトライアスロンやフルマラソンをやっていて、甲南では「鉄人」と呼ばれているらしい。お見それ致しました。

天狗原まで来ると風がつよく視界も悪い。原を横切って雪庇の張り出した東の縁にたどり着く。親沢右俣の源頭部はかなりの急斜面で誰一人滑ったトレースはないが、山本リー



天狗原にて

ダーはここを滑ると宣言すると雪庇の切れ目から飛び出していく。一人ずつ続いていくが、以外と雪が重く、深いところと堅いところがミックスしていて手強い。最初のターンで重い雪にスキーが外れて深い雪にもがく。立ち上がるのが一苦勞で、山スキーはこけないことが一番の鉄則を実感し、その後は慎重に滑っていく。源頭部の広い斜面が終わると沢状に狭くなる。沢の中の凹凸が見分けにくく、最初に滑る山本リーダーは苦勞するが、トレースが出来てしまうと、後から滑る者は楽である。左俣の合流点でそちらからの多数のトレースに合流する。ここからは再びシールを付けて1598mピークの稜線に登り直す。稜線に出たところから北側の斜面に入るが、この雪は非常に軽く、膝上まで埋まりながら降りてゆくと黒川沢の源流に出る。あとは沢伝い



天狗原からの滑り出し

にどンドン下っていくと、最後にスリット式の砂防堰堤に出て、スリットの間を通り抜ける。このとき、谷君が危うくスリットの後ろ側の水流に突っ込みかけたがすんでのところまでセーフ。あとは林道伝いに滑っていくと白馬乗鞍スキー場に出て無事下山。午後3時であった。

(おまけ)

私たちが山スキーに行った日に、梅

池のゲレンデで井上会長の奥さん涼子さんが、風貌、服装から外人と思って声をかけた相手の方が偶然にも、2009年のロプチン遠征の帰りに武漢で会った長野県山岳協会の一員の浅川とみ子さんと判明して、翌日

面識のある山田、山本で表敬訪問を行った。彼女は往年の(現在64歳とのこと)スキー国体選手で、ゲレンデでポールレッスンの先生をしている。「山スキーの練習にもなるんで一緒にやりましょう」とか言われて無理矢理ポールの練習に参加させられた。そのうちに本物の外人さんのオーストラリアからの一行も参加してポール練習することに。お陰でキャサリン嬢



(ゴーグルでよくわからなかったが多分若い)とも仲良くなったというおまけ付きの雪見会でした。

一方、ゲレンデ組は雪模様の中、せっせと滑降を楽しんだ。ゴンドラの中での浅川女史との会話は、武漢、チベット、長野県山岳連盟、山田さんなどのキーワードが飛び交った。そこからお互いの身元を明かして2009年の武漢での出会いと結びついた。武漢でいただいた中国ブランドの山道具屋の黒色の帽子を話のはずみから浅川女史に進呈することになったが、彼女少しはそのブランド・OZAKを宣伝してくれるであろうか。

今年の雪見会は、4K会から5K会に発展するのを楽しみにしていたが、期待していた

人たちの参加がなく 3K となって静かな雪見会だった。前田館のもてなしは格別であったし、幹事の飯田氏のお心遣いには心より感謝したい。

雪見会の後、田中、和光は蓼科の原田山荘に立ち寄った。 (以上 井上 記)



樽池ゲレンで楽しむ井上夫人、和光広典、田中信行
：井上達男撮影

ゴンドラ頂上で浅川女史と

◇期日：2013年1月18日～20日

◇宿泊：樽池民宿・前田館

◇ACKU参加者：田中信行、井上達男、井上夫人、和光広典、山田健、山本恵昭

